

高退協ニュース

高知高退協
事務局

2010. 5. 1

No.164

2010年

5月 1日

〒780-0850 高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸の内2丁目1-10
TEL 08818221682
TEL 0881822111893
郵便振替口座 0165012111893

2010年度

定期総会開く

高退協定期総会が、四月二十四日(土)高知城ホールに於いて三八名で開かれました。議長に國松勝氏を選出した後、この一年間で逝去された八名の方々に黙祷を捧げました。「腰痛で鍼(はり)を二〇本うち、張りのある生活を送っています」と三谷会長のユーモアを交えた挨拶の後、十八名の新加入者の紹介がされ、出席された三名の方から「決意を述べられました。続いて、米満敬幸高教組委員長から「厳しい学校現場をとりまく状況が頑張り続けていきたい」「ニューヨークNPT(核不拡散条約)再検討会議」参加のため資金カンパにご協力を」とどメッセージがありました。審議では、「きめ細かい、暖かみのあるとりくみ、ネットワークづくりを」「後期高齢者医療制度即時廃止運動を強める」「議案書体裁の整理検討」「経済の不況による子どもの貧困、教育の格差と貧困など身近な情勢の把握についてなど、活発な議論が行われました。また、憲法問題では、資料を用いての補強意見もありました。続いて、「活動の経過と一〇年度活動方針(案)」「決算・監査報告と一〇年度予算(案)」「規約改正(案)」「役員体制」がいずれも承認され閉会されました。

- 「二〇一〇年度役員」
- 会長 三谷 隆彦
 - 副会長 土居 正明
 - 事務局長 橋元 陽一
 - 事務局次長 小澤 幸次
 - 常任委員 中村 正博
 - 梶原 昌三
 - 田所 昌澄
 - 松山 和雄
 - 濱田 昌子
 - 井垣 政利
 - 島本 聡
 - 飯田 圭み
 - 井上 圭介
 - 千葉 繁之
 - 山脇 正照
 - 岡崎 清恵
 - 和田 明
 - 林 応子
 - 坂本 敬子
 - 鎌田 伸一
 - 胡麻崎 ゆう子
 - (退任) 副会長 渡辺 正男
 - 常任委員 土居 康男

2010. 5. 1 高知市中央公園



雲一つない真っ青な高知城下を18名の高退協の仲間が、中央公園を出発して整然と行進しました。

退職者を励まし

新加入を祝う会 盛大に開かれる
総会に続き、退職者を励まし新加入を祝う会が四階ホールにて、九〇名を超える参加で盛大に開かれました。高退協からも四名が参加しました。祝う会は、米満高教組委員長の挨拶、三谷高退協会長の乾杯の音頭が始まり、第一部の励まし会では、本年度退職で出席された六名の方々から思いのこもった挨拶がありました。また、第二部の新加入を祝う会では五名の新組合員が、それぞれ職場の代表者によって紹介され力強く挨拶をされました。なお、高退協に加入された方々は次のとおりです。(二〇〇九年四月二十五日〜二〇一〇年四月二十四日)

- 千光士厚子 (過年度)
- 池藤 仁造 (過年度)
- 杉岡 啓昭 (過年度)
- 川村 教雄 (過年度)
- 森下 志郎 (過年度)
- 宮崎 義隆 (宿毛)
- 宮本 哲 (宿毛)
- 久保田 哲 (宿毛)
- 井上 圭介 (高知工定)
- 北原 留美 (市商)
- 畑川 留美 (市商)
- 畑山 留美 (市商)
- 上村 留美 (中村養)
- 上岡 留美 (小津)
- 杉藤 留美 (宿毛)
- 前田 留美 (宿毛)
- 澤田 留美 (過年度)
- 孝節 留美 (過年度)
- 幸雄 留美 (過年度)

皆様の

ご協力を

会長 三谷隆彦

定期総会で新年度の役員が選出されました。私ども役員は会員諸氏のご協力を得まして活動方針を推進します。どうか宜しくお願いします。六〇歳で退職し百歳まで生きるとしますと、高退協の任務はその四〇年間を楽しく暮らす環境作りにあると考えます。七月に会員名簿を発送します。名簿をご覧になって昔の同僚に「元気かえ」と電話しましょう。さらに喫茶店で会ったり、一杯飲むのもよいでしょう。退職後、農業をしている新会員と電話で話しているうちに私はお人柄にひかれて訪問したくなりました。

皆様から原稿をいただきニュースや機関誌「こうたいきょう」を発行します。温泉昼食会や親睦旅行も計画します。登山、読書会、スキー、テニスなども続けています。高退協に不利な後期高齢者医療制度を廃止し、安心して病院へかかる医療制度にすることも急務です。五月ニューヨークで開かれる核兵器廃絶運動に高教組から坂本智香さんが参加しました。多額の旅費が必要です。私たちは坂本さんに会い、「応援します」と声援を送り旅費の一部になればと五千円を差し上げました。彼女から「ゴセンエン有難うございました」とお礼の言葉を頂きました。

退任挨拶

渡辺 正子

五月晴れの空に鯉のぼりの家族が楽しそうに泳ぎ、若葉の緑が目にしみる今日この頃です。私事ですが、以前より(自分自身で)予定していた五年満期?の期間終了に伴い高退協事務局を離れることになりました。

五、六年前より体調を崩し今は(要介護度五)の認定で特別養護老人ホームでお世話になっている母の介護の手助けをするのは、子供の役目だと思ひ決心しました。

五年間の事務局での日々はたくさん心やさしい方々の出会いや交流があり、充実した時間を過ごす事ができました。

多くの方に支えていただきこれまで何とかやってこられたことに深く感謝しています

これからは、体力・知力・気力の劣化のスピードをできるだけスローペースにしたいと念じながら、母の食事介護等を中心に、地域での活動等地域社会との接点を持ち続けたいと思っております。これまで、皆様に大変お世話になりました。そして、ありがとうございました。

退任挨拶

土居 康男

退職後すぐ事務局の仕事を担当するようになってからあつという間に2年が過ぎました。生徒たちを始め、毎日多くの人たちと接していた日々が急変したなか、事務局会で他の人たちと共に仕事をすることは、忙しいけれども楽しみでもありました。若い時いろいろと教えていただいたながら、退職されて以来あまり会う機会がなかった先生方が、当時の情熱を失うことなくお歳を重ねて居られる。ご様子を知ることができたことなど、私自身今後の残り少ない人生を励まされる思いがしたことです。

この春からしばらく学生に戻るため退任することになります。高退協の一員として会員の方々のつながりを

大切にしていきたいと思ひますので、新しい事務局の皆さまにはよろしく願ひします。

新任挨拶

井上 圭介

三月三十一日、高知工業定時制で定年退職になりました。井上圭介です。このたびお誘ひいただきまして、高退協に参加することになりました。そのうえ、役員候補に薦めていただきまして。もとより浅学非才の我が身のこと、役員としての責務が果たせるか甚だ心もとないことではあります。ただただ全力で勤めさせていただきます。ご指導のほどよろしく願ひいたします。

新任挨拶

飯田まゆみ

日高養護学校を退職して早や四年がたつてしまい、頭も加速度的に衰退していつてますが、このたび役員として参加することになりました。少しでもお役にたてればと思ひます。よろしく願ひします。

高教組より

米満敏孝

この春、革命的な出来事が2つありました。

そのひとつは、高校授業料が無徴収となりました。1年前には考えられなかったことです。昨年の総選挙で私たち国民の力で政治を変えたことと、私たち高教組が、全教、日高教に結成して以来、「教育費の負担低減を」と取り組んできた3000万署名をはじめとする運動の大きな成果です。教育は個人の責任でなく、「社会全体で支えていこう」というのが世界の流れです。日本政府が中等・高等教育の漸進的無償化を定めた国際人権A規約13条2項(9)(10)の留保をすみ

やかに撤回し、あわせて、教育機関への公財政支出のGDP比をOECD加盟国平均(2009年最新値4.9%)、日本は3.3%)にまで引き上げること求め、教育費の心配なくだれでも安心して学校に行ける条件作りをさらに国民的な運動としてすすめていく必要があらります。

もう一つは、今年度実施される教員採用募集要項では、「臨時教員で昨年度一次審査合格したもの的一次審査免除(専門を除く)」が実現したこと。採用試験が現在の一次、二次分離方式となった1986年以来、私たち高教組は、分離方式が教員選考審査を競争試験化するものであり、現場をかかえ受審する臨時教員にとって不利であるとして、「臨時教員での経験が公平に評価され採用審査」や「一次審査合格者について免除」を県教委へ要求し続けてきました。また09年2月には、臨時教員136名から集めたアンケートの結果を分析し、「教員採用審査・臨時教員制度

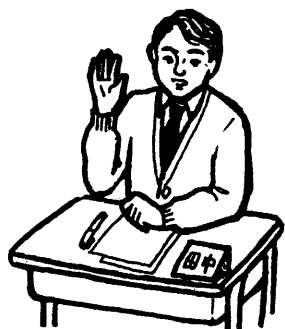
草声老話

「しんぶん赤旗」と私

岡崎 清恵

今や「しんぶん赤旗」は私にとって欠かせないものになっている。半世紀以上にわたる愛読者である。思えば初めて「赤旗」に出会ったのは一九五七年の春、高岡高校に赴任し、臨席の故産田治衛先生に購読を奨められた。当時既に、愛媛の勤評闘争が開始されており、翌年には本県でも勤評実施が県民の強い反対運動にもかかわらず決定された。県教組は「教え子を再び戦場に送るな!」「勤評は戦争への一里塚」のスローガンを高く掲げた。政治の動きに無関心ではいられなくなった。同僚の今は亡き沖本俊明先生から「貴方が政治を忘れても政治は貴方を忘れない」とい

についての要求書」を提出し、一次審査合格者の次年度の一次審査を免除することなどを求めました。今後さらに臨時教員の4月1日発令や待遇改善を求める運動をすすめていきます。



う文言も教えられた。政治の動きを正しく知るには、創刊以来一貫して戦争に反対する政党の新聞を読まなくてはと自分でも考えたことだった。

ある朝、通勤バスの中で、故西内薫先生に「私は高知新聞を読んでから赤旗新聞を読んでいます」と話すと、先生は「赤旗を先きに読んだ方が政治の動きが良く分かりますよ」と教えられた。

一九六〇年七月、三池炭労支援オルグで一週間ほど三池に滞在した時「西内先生の言葉の通りだ」と痛感したことだった。平和と民主主義、民主教育や生活・権利を守り発展させる上で「しんぶん赤旗」は、欠かせない政党紙だと確信する今日この頃である。